

えほん『虫ガール ほんとうにあったおはなし』

ソフィア・スペンサー/文 マーガレット・マクナマラ/文 ケラスコエット/絵

ふくもと ゆ み こ やく いわさきしよてん
福本友美子/訳 岩崎書店

すきな気持ちを大切にしよう



小さいころから、虫が大すきなソフィア。ようちえんでは、虫にくわしくてみんなの人気者でしたが、小学校に入ると、虫がすきなことでいじめられてしまいます。

落ちこんでしまったソフィアは、「虫をお休みする。」と、言いだしました。心配したお母さんは、こん 虫学者の人たちに、「虫ともだちになってくれませんか？」と、メールを送ります。すると、たくさんの人から、ソフィアにメッセージがとどきました。虫がすきな人たちが、世界中にたくさんいることを知ったソフィアは、「虫がすきでいいんだ。」と、自しんを取りもどすことができましたようです。

実は、このお話は、本当にあったお話なのですよ。

ものがたり『うたうラッパ貝がら』ミッチの道ばたコレクション

きさらぎ さく コマツシンヤ/絵 かいせいしや 偕成社

シリーズ3巻目

ふしぎな世界へようこそ

ミッチは、道ばたでひろったものをコレクションするのが大すき。海に行った時に、にじ色でぐるぐるまらまった形をしためずらしい貝がらを見つけ、もちろん家に持ち帰りました。

すると、その夜、貝がらから女の子の歌声が聞こえてきたのです。ミッチは、貝がらに向かって、「だれかいるの？」と、声をかけてみましたが、歌声はぴたっと止まってしまう、何も聞こえなくなってしまうしました。

ミッチは、女の子と友だちになりたいと思い、少しずつ声をかけつづけました。そうすると、ある日、ふしぎなできごとがおこったのです…。



ものがたり『ちびしろくまのねがいごと』

こばやし みゆき さく しょうの な お こ え いまいずみただあき かんしゅう こうだんしゃ
小林深雪/作 庄野ナホコ/絵 今泉忠明/監修 講談社

とほつきよく 遠い北極からのおねがいです

北極で生まれたしろくまの赤ちゃん、兄のユールと、弟のミール。兄のユールは勇気があり、弟のミールはちょっぴり弱虫。そんな兄弟とお母さんの3頭が、春夏秋冬と1年をすごしていくものがたり物語です。氷の山をすべったり、海をおよいだり、北極にいる

動物たちとあそんだり、季節によってすがたをかえる北極でのしろくまのくらし方を楽しく学ぶことができます。

そして、1年を北極ですごした弟のミールには、あるねがいごとができました。そのおねがいとは、一体何でしょうか？遠い北極のお話ですが、私たちにもしろくまのためにできることがあるようですよ。

ものがたり『あらしのよるに』シリーズ1巻目

きむらゆういち/作 あべひろし え こうだんしゃ
あべ弘士/絵 講談社

あらしの夜のぐうぜんの出会い

あるあらしの夜に、白いヤギは、雨宿りをするために、小さな小屋にもぐりこみました。小屋の中は、真っ暗で何も見えません。

そこへ、ガタンと、だれかが小屋に入ってくる音が聞こえました。入ってきたのは、なんと、ヤギを食べてしまうおそろしいオオカミだったのです。

しかし、おたがいのすがたが見えないまま会話をするヤギとオオカミは、ヤギは相手をヤギだと思い、オオカミは相手がオオカミだと思いこんでいるようです。

ヤギとオオカミは、たくさん話をしているうちにすっかりなかよくなり、次の日にもう1度会うやくそくをしました。さて、本当のすがたを見た2ひきはどうなってしまうのでしょうか？

つづきが気になった人は、シリーズ全7巻読んでみてくださいね。

